

令和4年度 県立日立北高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 全ての生徒が「学ぶ」喜びを実感し、自己実現を果たせるような「学び舎」をつくる。 (2) 校訓「誠実・克己・創造」の実践に努め、豊かな創造性や進取の精神に満ちた校風を継承し、発展させる。 (3) 学習活動と特別活動等との両立を推進し、生徒一人ひとりに自らの未来を切り拓く知性・能力を身につけさせる。 (4) 生徒一人ひとりを大切に教育を実践し、生徒・保護者・地域住民に信頼される「地域に開かれた学校」づくりを推進する。			
昨年度成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
(学習指導) [成果]令和4年度入試の国公立大学現役合格者数は54名であった。一人ひとりの進路希望を多様な入試形態に対応して検討するなど、3年間を見通した継続的な学習指導やキャリア支援等の成果といえる。1年生の地域探究を経て、2年生で沖縄探究を継続し、成果の共有や発表等の機会を通して、生徒の自主性・行動力・発信力が向上した。 [課題]新学習指導要領や大学入学共通テストに対応した学力の3要素を育成する授業や評価の在り方を研究していく。	(1) 生徒の進路希望に応じた学力向上の推進 …ICTの活用・授業研究の推進	1 習熟度別授業などの個に応じた指導を、柔軟かつ多様に導入し、基礎的な知識・技能の習得を図る。 2 互見授業等を通して、思考力・判断力・表現力を育成する授業研究、指導力向上に努める。 3 生徒の進路希望に応じた適切な課題を取り入れ、ICTの活用を推進する等、自ら学び続ける力を育成する。	B	
	(2) 入りたい大学への積極的な挑戦 …キャリア教育を踏まえた生涯学習力の育成	4 個別面談を充実させ、生徒の自己理解の深化と自己受容を促し、学びに向かう力を涵養する。 5 様々な進路行事の目的を明確化し、効果的な実践と振り返りを行うことで生徒の学習意欲を喚起し、適切な勤労観・職業観を育成する。 6 進路情報の収集と的確な提供に努め、生徒一人ひとりの進路に複数の教員がサポートする協働体制を構築する。 7 課外指導においては、習熟度別講座等を取り入れて効果的な指導に努める。	A	
	(3) 「豊かな心」の育成 …多様性を認め合えるグローバル人材の育成	8 環境教育やボランティア活動を推進し、他者への思いやりを育み、いじめには組織全体で迅速に対応する。 9 相手の立場になって考え、行動できる人間性を育み、SNS使用の自己管理能力を高める。 10 国際理解教育を推進し、互いの違いを認め、グローバル社会で活躍できる人材育成を目指す。 11 コンプライアンスを遵守するとともに、体罰・暴言によらない指導を実践する。 12 特別な配慮を要する生徒への、共通理解を図り、合理的配慮や適切な支援について研修を深める。	A	
	(4) 学習活動と部活動・特別活動の両立 …主体性と自己肯定感・レジリエンスの育成	13 部活動の一層の活性化を図り、生徒の自己肯定感を育てる。 14 特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)を充実させ、キャリアパスポートを活用し規律や協働性を養う。	A	
	(5) 健康と安全への配慮 …生徒への伴走(寄り添い)と働き方改革の推進	15 健康教育の推進や環境整備を通して、生徒及び教職員の健康の維持・増進を図る。 16 生徒相談の充実と、スクールカウンセラーと連携し生命の大切さを理解させる。 17 学校行事の効果的配置や校務の適正化・効率化を推進することにより、教員の働き方を改革し、更なる教育活動の有効化を追究する。	B	
	(6) 情報公開の積極化 …魅力の発信と広報体制の充実、志願者の確保	18 学校評議員会・PTA・同窓会等との連携を強化し、情報公開に努める。 19 学校説明会(夏・秋)の内容を充実させ、中学校・学習塾等への訪問を積極的に実施し、生徒数確保に努める。 20 スクールガイドの内容を刷新し、ホームページの更新頻度を高め、広報体制を充実させる。 21 「学年だより」「学級通信」「進路情報」「保健だより」等を通して、必要な情報を生徒・保護者に提供する。	B	
	(7) 今後のビジョンの具体化と、ビジョンに沿った教育活動の展開 …地域に愛される高校	22 本校の将来像を見据え、グランドデザインに基づき教育活動を展開する。 23 地域の中の学校として、普通科の在り方について検討を進める。	B	
三つの方針(スクール・ポリシー)	具体的目標	評価	次年度(学期)への主な課題	
三つの方針(スクール・ポリシー)	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	①豊かな創造性と進取の精神を備えた、意欲的に学ぶ自立した学習者の育成 ②多様な考え方を受け入れ、協働的に学ぶ姿勢を貫ける地域のリーダーの育成 ③未来を切り拓く知性と能力を身に付けるために、努力を続ける地球市民の育成	B	入学時からの系統的指導の確立。 生徒の進路希望に添ったきめ細やかな指導の実施。 生徒一人ひとりの学習特性に配慮した、教育活動の実現。 読解力・表現力の向上を図る指導の研究。 一人ひとりの自己実現に配慮した学校づくりが為されているかを常に点検しつつ、地域に活動を周知すること。
	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	①全ての生徒が「学ぶ」喜びを実感し、自己実現を果たせる「学び舎」の実現 ②生徒一人ひとりを大切にし、進路実現にこだわったきめ細かな教育の実現 ③ICTを活用し、授業+αの学習を主体的に実践する仕組みづくりの実現	B	
	入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	①己に打ち克ち、学習活動と部活動・特別活動の両立を目指す生徒 ②誠実を重んじ、端正な服装と丁寧な言葉や態度を実践できる生徒 ③創造的であり、知的好奇心と他者に寛大な心を大切にできる生徒	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導	国語	理解を深める指導	学習の目的・内容を明らかにし、わかる授業の展開に努める。	1,2 A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちが主体的に学ぶ態度を育成していきたい。他校の例を参考にすることができるよう、各々が参加した研修や出張等で得た情報を科内で共有していくことも必要である。 基礎学力(古典)の強化、語彙の増加を図る。低学年時より定期的に小テストを行った朝ドリル等で取り組んだりすることによって、英単語同様に日々の反復練習を定着させる。 シラバスや考查回数を見直しをしていく。新課程の「現代の国語」「言語文化」では当初の予定よりも進めが遅いことや、単元の指導内容によっては定期考査への出題が懸念される点がある。 ICTの持続的活用を努める。教員側だけでなく、生徒自身がICT機器を用いて学習ができる環境を少しでも形作るこが出来るようさらに改善していく必要がある。 2学年次に、共通テストに則した多様な問題に触れる機会を増加させる必要がある。
		積極的な学習態度の育成	習熟度別授業や課題学習を通して、自ら課題を見付け解決する能力を養う。	3,4 B	
		基礎学力の向上	予習・復習の取り組みを習慣化させ、家庭学習の定着を図る。	1 B	
			小テスト等を実施して学力の把握に努めるとともに、ICTの活用などで展開を工夫し、生徒が主体となる学びの場を設定する。	1,2 A	
		大学進学に対応した学力の向上	課外等を実施し、問題の演習を重ねながら基礎力を高め、応用力の向上を図る。	3,7 A	
	地歴	基礎学力の向上を図る。	シラバス等に基づいた授業を展開し、系統的な指導による知識の理解をすすめる。	1,2 A	<ul style="list-style-type: none"> 新設定教科「地理総合」「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」の内容把握と授業実践の計画を早期に立てること。シラバスに基づいた授業を展開し、基礎力を高めドリル等を実施し授業内容の定着をはかる指導を徹底する。そのことによって大学受験の実力をアップさせる指導に取り組むこと。
		家庭学習の定着に努める。	ドリル等を実施し、授業内容の定着を図る。ICTを活用して知識の習得を図る。	1,3 A	
	公民	大学進学に対応した学力の向上	小論文指導を通して、思考・判断力の醸成に努める。	1,3 A	<ul style="list-style-type: none"> 新設定教科「公共」の内容把握と授業実践の計画を早期に立てること。大学受験の小論文指導に関して時事問題に早期に取り組みませ思考・判断力を培い小論文の記述力を高めさせる技術を身につけさせる。
		公民的思考力を養う。	時事問題に関心を持たせ、自己の在り方・生き方を考えさせる。ネットワークを活用して目的に応じて様々な情報を集める。	3,10 B	
	数学	基礎学力の向上を図る。	演習・授業で少人数授業や習熟度別授業を積極的に活用し、生徒が学習しやすい環境をつくる。	1 B	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着のための課外や補習等の支援ができています。生徒たちの力をさらに伸ばすためには現状を的確に把握し、指導を工夫していく。 スタディサプリ等の動画配信を家庭学習の習慣化に繋がるような工夫の一つとして検討していく。 入試を見据えた授業進度や考査の難易度の設定など、教科会などを通して共通理解を図れている。教科全体で共通理解を持って、異動などでメンバーが替わっても生徒たちのためによりよい指導ができるようなシステムの構築を継続して考えていく。
生徒の実態に応じて教材研究や授業研究を行い、分かりやすい授業を実践し、基礎学力の向上を図る。			2 A		
家庭学習の定着に努める		副教材を用いて計画的に授業の復習をする。習慣が身に付くよう、定期的にノートを点検する。また、スタディサプリ等の利用を推進し、自ら学習する姿勢を養う。	3 A		
大学進学に対応した学力の向上		予習、授業、復習のサイクルを確立させる。特に復習をしっかりと行わせることにより「基礎力」から「応用力」の向上を図る。	3 A		
		模擬試験・入試問題を分析し、授業、ドリル、課外等での適切な教材等を提供する。	7 A		
理科	基礎学力の向上を図る。	小テストやドリルなどを実践し、一人ひとりの学力を把握し学力向上を図る。	1,2 C	<ul style="list-style-type: none"> 実験・観察の考察をする力の育成が課題。実験データの扱い方、グラフの描き方など基本的な実験の進め方の理解も深める必要がある。データの記録や結果の読み取り、原因の考察まで、今まで以上に丁寧に回数が増やす必要性を感じる。 演示ばかりになってしまっている考察までさせられなかった。次年度はグループで実験観察を増やしたい。 模擬試験や大学入学共通テストの結果を見ると基礎学力の確実な定着を図る取り組みが効果的に行われていたとは言いがたい状況である。次年度はより効果的な方法を実践していく必要がある。 科学的思考力、判断力を養うためにも資料や文章から情報を読み取る力をつけることが課題となる。 	
	科学的思考力・判断力を養う。	必要に応じてインターネット等を活用し、教科内容と身近な科学技術・日常生活の関連について考察を深める力を育成する。	2,3 B		
		実験・観察を通し、科学的に判断する力を育成する。	2,3 B		
保健体育	授業時間の確保	集合時間を厳守させ、チャイムと同時に授業が始められるようにする。	1,16 A	<ul style="list-style-type: none"> 体育の実技でのICT活用は、体育館やグラウンドにWi-Fi等が届かないことやタブレットの破損リスク(落下等の衝撃や砂埃による故障)についてどのように使用していくことが良いのか体育科だけでなく学校として検討していく必要がある。 保健では、ICTを活用しながら更に生徒の思考力判断力の向上に努めていく必要がある。またデジタル教科書の活用について生徒を含めどのように活用していくかの検討が必要である。 	
	頑健な体力と強靭な精神の涵養につとめる。	準備運動や補強運動を工夫し、継続的に体力の向上を図る。	2,13 A		
		安全に留意し、自己の体力レベルを確認しつつ常に向上を図る。	2,13 A		
		ICTを活用し、知識及び技術の習得を図る。	1,2 B		
健康の保持増進に努める	感染症の予防や心身の健康について理解を深める。	28 A			
芸術	基礎基本の重視	必要に応じてICTを活用しながら個々の表現に応じ、基礎・基本に重点を置き、技術・技能を修得させる。	2,4 A	<ul style="list-style-type: none"> 特別教室はネット環境が整備されていないため、移動Wi-Fiを活用し授業を展開した。年度当初は接続に戸惑う生徒もいたが、次第に慣れ有効に活用することができた。今後はさらに鑑賞・創作の指導にインターネット等を活用していく。 来年度は教育課程の改定で、2学年での芸術科の授業がなくなることを踏まえ、1学年での学習内容をさらに見直ししていく必要がある。 	
	鑑賞能力の育成	インターネットやAV機器を活用し、より多くの芸術作品に触れさせ、鑑賞能力を伸ばす。	2 A		
	評価法の工夫	自己評価や、生徒間の相互評価により、自らの表現に対し客観的な視点を持たせる。	1 B		
外国語(英語)	基礎学力の向上を図る。	確認テスト等を利用し、生徒一人一人の到達度を把握し、学力の向上を図る。	1 A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の英語4技能を高めることを目的に、普段より教材研究および授業改善に努め、その技能を適切に評価するために、より緻密な作問意図を持ったテスト作成をしたり、定期的なパフォーマンステストを実施していったりする必要がある。その上で、変化の大きい大学入試に対応していく。 国公立大学、私立大学で、多様な形式での導入が年々広がる英語外部資格検定試験について、1学年終了時に英検準2級取得、2学年終了時に英検2級取得といった明確な目標を定め、その利点を啓発し、生徒のその取得を推奨していく。また、授業内でのアクティビティのより一層の充実を図ることで、資格取得達成に向けたサポート体制を、これまで以上に強化する。 各教員が研修を積みながら、学年・教員間の連携を密にし、共有したり次の学年に引き継いでいける教材やメソッドは、積極的に活用していく。 予習復習や学習の繰り返しの重要性を、授業を通じて生徒に実感してもらい、生徒の語彙力強化やwpm(1分間あたりの読解語数)強化につなげる。 	
		定期考査・模擬試験等の結果を生徒にきめ細かくフィードバックし、学習への取り組みに反映させる。	1,4 B		
	家庭学習の定着に努める。	家庭学習の内容を具体的に指示し、ノート提出や小テストで実施状況を確認する。	1,3 A		
		声かけを丁寧に行うことにより、家庭学習の重要性を認識させるとともに、継続させ習慣化を図る。	2,12 B		
	受験に対応できる確かな学力を身につけさせる。	ICTを活用や教材の精選によって、密度の濃い授業を展開する。	2,3 A		
課外授業を通じて、一人一人の進路希望に応じた問題演習を課し、学力の向上を図る。	1,7 A				

評価項目		具体的目標	具体的方策			評価	次年度(学期)への主な課題		
家庭	将来を見据えた自立への意識の高揚	今までの自分を見つめる活動と、様々な人の生き方や問題点を探る活動をとおして、将来を見つめ、自立への意識を高める。	3, 5, 6	A	A	ポートフォリオを活用し授業の振り返りを行うことで、生徒は生活課題を自分事として捉えられるようになってきている。さらに、生徒自ら家庭や地域の生活課題に気づけるよう、ICTを用いて情報を整理し、思考を深められる授業の展開を研究する。 ホームプロジェクトの進め方、レポートのまとめ方の指導の工夫。			
		実習・体験学習・ICTの活用をとおして、技術の習得を図り、実践的な力を育成する。	1, 8, 12	A					
		自立した生活に必要な知識・技術の定着を図るとともに、適切な価値判断と意思決定をする力の育成	グループ活動をとおして、協働や協調性を育成する。	9, 12			A		
		生活課題を見つけ解決していく実践的な態度を育成する。	1, 8	B					
		課題を解決するために思考し、判断した内容をレポート等でまとめる力を育成する。	3, 5, 12	B					
	情報	情報社会に参画する態度を育成する。	情報通信ネットワークとコミュニケーションについてその仕組みの理解とマナーについて理解させる。(コミュニケーションにおける情報ネットワークの活用、ネチケット、電子メール、SNS)	9			A	A	・情報Ⅰの共通テスト出題を受け、それを意識した授業作りが課題。 ・本年度と異なり、情報Ⅰでは学習する量が多いため、実習と演習のバランスをよく考えて、生徒の学力向上に努める。 ・Pスタディ等を用いて主体的に学習を進められる・臨める様にしていきたい。
			情報の収集・発信の方法を実習をとおして具体的に理解させる。(情報検索、デジタルプレゼンテーション)	1			A		
			各種メディアから進路に関する情報を収集・整理し、自己の在り方生き方について主体的に考えさせる。	3, 6			A		
			情報化の推進と社会への影響及びその功罪について考えさせる。	2			B		
教務	授業時間の確保	調整日を設けるなど工夫して授業実施時間に不均衡が生じない年間計画の策定を行う。	1, 17	A	A	・業務マニュアル整備が継続的に進んでいる。 ・授業力向上に資するため互見授業の機会を年間10回設定しているが、実施回数高め授業力向上に結び付けるための工夫が問われている。 ・教育目標の具体化と目的意識の共有を図り1つ1つの事業に対し主体的で積極的な取り組みとなるように企画する。 ・国際理解教育の具体的な事業へとつなげる方向性が決定し、今後は海外派遣を含めた持続的に実行可能なものを提案する必要がある。 ・ICT教育への対応及びルール策定を整備している。 ・PRの仕方について、福島県への中学校訪問や、従来の中学生対象の説明会を実施したが、本校の良さを確認しつつ効果的に発信したい。 新しい学力観に基づく評価の在り方の検討を進め改善に向け情報共有を重ねている。			
		授業力向上の推進	積極的な互見授業を通して、生徒の学力向上に不可欠なICT教育の推進と授業力の向上を図る。	2, 3			B		
		学力向上の推進	達成目標に準拠した学習内容・方法について教科シラバスの再検討を行い、「分かる授業」を実施する。	1, 3			A		
		自ら課題を見つけ自ら学ぶ力の育成	すべての教科で主体的に学ぶ学習場面を増やすとともに、3年間を見通した「総合的な探究の時間」の指導を通して自ら学ぶ意欲を向上させ、学ぶ喜びを実感させる。	3, 5, 10			B		
		教育課程編成の研究	新学習指導要領に対応し、生徒にきめ細かく対応できる教育課程への移行を行う。	11, 12, 22			A		
	図書館利用の促進	図書部関連行事の徹底を図る。	16	A			B	・生徒図書委員研修会の分科会担当となっていたが、図書委員会を主体的に活動させることができた。 ・フロムライブラリーのHPへの掲載と本の展示コーナーを設置することができた。蔵書の更新を適切に行うことが出来た。 ・ICT活用に関しては、「朝日けんさくくん」と「朝日中高生新聞」を試行導入したが、探究活動や進路指導につなげられるよう、連携を図り、引き続き拡充に努めたい。 ・蔵書の中から廃棄図書をどう決めていかに処分するのがよいのかを探っていきたい。	
		書籍、資料等の利用を促進させる。	13	B					
		図書委員会活動を活性化させる。	13	A					
		ICTを活用した、書籍・資料の充実にも努める。	13	B					
生徒指導	学年の協力体制作り	生徒に関する情報交換を密にする。	9, 16	A	A	・教員の転出・転入、現代社会における考え方の変化に伴い、服装規定の教員間や家庭とのズレの確認をし、方向性を整える必要がある。 ・コロナ禍による生徒の心のケアに対し、より教員と保護者、生徒との関わりを持ち、スクールカウンセラーと連携して対応していきたい。			
		生徒指導に関する情報、資料の収集と提供に努める。	8, 12, 16	A					
		容儀指導を徹底し、端正で高校生らしい服装・マナーの維持を図る。	8, 9	B					
		登校指導の継続的実施によって、あいさつや身だしなみが整った生徒の育成に努める。	9, 15	B					
		教育相談の充実を図り、生徒の理解に努め、問題の早期発見・早期解決を図る。	16	A					
	生徒の現状把握	幅広く客観性が担保されるよう校則の点検・見直しに取り組む	11	A					
		登校指導・自転車乗車指導や被害調査を実施し、事故の未然防止に努める。	8	A					
		さわやかマナーアップ運動の積極的な実践を推進する。	8, 9	A					
		貴重品の管理を徹底し、盗難の防止に努める。	8, 9	B					
事故の未然防止	自立北高生としての自覚を持たせ、学校への「学び舎」としての意識を涵養する。	4	B						
	「道徳」や「道徳プラス」においてICTを活用した「心の教育」を実施し、生徒の規範意識を涵養する。	9	B						

評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	生徒の適切な進路選択の支援	生徒の主体的な進路選択が支援できるように、個別面談を充実させる。そのために、入試情報などの各種情報を整理して、担任や生徒・保護者に適切に提供する。	4,6 21	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の基礎学力を向上させるため、学習習慣の定着とシステム手帳を活用したスケジュール管理をより推進させていく必要がある。 ・授業や土曜課外における欠席者の増加、希望課外参加者の減少から、勉強することや学ぶことの意義を理解できていない生徒が多くなっている気がする。キャリア教育が求められている背景とその基本的な考え方を教員間で共通理解を深め、生徒・保護者に周知していく必要がある。 ・年内入試(学校推薦型・総合型選抜)が拡大していることを踏まえ、それらの受験方式に相応しい生徒かどうかを、担任任せせず、生徒の学力や適性、学校内外の取り組みを参考に、客観的に判断できるような仕組みが必要である。
		職業観育成セミナー、進路観育成セミナー、大学模擬授業など、進路関連の様々な行事を通して、生徒が自分の将来について真剣に考える機会を設ける。また、行事内容のより一層の充実と精選を図る。	5,6 14,17	A	
		茨城大学工学部インターンシップ、一日看護体験などの希望者対象の各種進路体験を生徒に積極的に案内し、自分の進路に対する視野を広げる機会を増やす。	5,6 14	A	
	生徒の基礎学力の向上	授業を中心とした予習・復習の習慣を定着させる。そのためにシステム手帳の活用や、スタディサブリの活用・普及に向けて、学年や担任をサポートする。	3,4	C	
		実力養成のための学習機会を確保するため、朝ドリル・小論文指導・面接指導・実技指導・模擬試験・平常課外・長期休業日課外等を実施する。また、土曜登校日・早朝夜間自習室開放・休日自習室開放への積極的参加を推進する。	1,3 7	C	
		入試問題や入試情報・受験報告書等の整理と適切な提供に努め、学習意欲の喚起と学力の向上を図る。	3,6 21	A	
		職業探究、学問探究、地域探究、沖縄探究という一連の探究活動を通して、自分で課題を発見し、それを突き詰めていく力を育成する。	3,5 14	A	
指導のノウハウの継承	進路分析会を毎年開催し、学年や担任の指導のノウハウの伝達や継承、改善を図る。	6,22 23	A		
保健厚生	生徒の心身の健康増進	健康の推進や環境整備を通して、生徒の健康の維持・増進を図る。	15	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に昨年度の検証と改善策を活かし業務の整備ができた。 ・短時間での清掃はできておらず、改善の方法を考える必要がある。 ・感染症予防は全校一丸となっており、新型コロナウイルス感染症対策をきちんと行っていた。 ・防災訓練は新型コロナの影響下で精一杯やれたと思っているが、通常時に戻ればもっと充実したものになると考える。
		定期健康診断が円滑かつ効果的に行えるよう体制を強化する。	15	A	
		感染症予防体制の強化を図る。	15	A	
		養護教諭不在時の応急処理体制の強化を図る。	15, 16	A	
		感染症、栄養、運動、休養、保健室等の利用状況について「保健室だより」を月1回発行する。	15, 16	A	
		保健厚生部広報紙「英」を年1回発行する。	15, 16	A	
	安全で快適な教育環境の維持に努める	ゴミ処理の分別が円滑に行えるよう、生徒への指導を徹底する。	15	A	
		短時間で効果的な清掃が行えるよう清掃方法を指導する。	15	B	
		防災訓練を実施し、非常時の安全確保に備える。	15	B	
		エアコンの使用について、使用温度等の規則の徹底を図る。	15	A	
		大掃除の実施時期と係分担を定め、効率的・効果的に環境の美化に努める。	17	A	
		奨学生募集のインターネット化に対応できるよう、厚生系の体制の強化を図る。	17	A	
		専門家による性教育を実施する。	15	A	
特別支援教育の充実を図る。	12, 16	A			
特別活動	ホームルーム活動の充実を図る。	年間計画に従い、計画的なロングホームルームの運営を行う。	17, 20	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルーム活動はコロナの感染対策の緩和により、徐々に制約のない通常の活動が出来つつある。 ・部活動に関しては県からの指示で大きな変化を迎えつつある。令和5年度以降非常に不安定な状況を迎えつつある。 ・生徒会活動についてはコロナによる活動の停滞期間が大きく影響しており、今まで継続して受け継がれてきたことが途切れてしまっている。見方を変えれば、新しい事に取り組むチャンスなのかも知れない。
		ホームルーム活動指導資料集の活用を進めるとともに、キャリアパスポートを活用し規律や協調性を養う。	14	B	
	部活動の活性化を目指す。	学業との両立を基本に、より活発な部活動を目指す。	13, 19, 22	A	
		文化部への積極的な参加を促し、バランスのとれた部活動編成に努める。	13, 19	A	
		施設・設備の整理・整頓に努め、自ら活動環境を整えようとする意識を高める。	14, 15	B	
	開かれた生徒会活動を目指して指導する。	「生徒会ステーション」を発行し、ICTの活用を推進するなどし広報に努める。	20, 21	B	
		生徒会活動を手伝うボランティアを一般生徒から広く募り、一緒に生徒会活動を行っていく。	8, 20	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
渉外	学校に対する保護者の意識を高め、保護者との連携を図る。	学校の教育活動広報のため、PTA広報紙を発行する。	18	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染防止のため、長期休業中の巡視はすべて中止となり、生徒指導委員の活動は、ほとんどできなかった。他の活動ができるか他校と情報交換などを行ってきたい。
		社会人(卒業生)による職業講話を実施し、生徒の進路選択に資する。	5	A	
		長期休業中に保護者と協同して巡視を行う。	18	C	
		コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、ICT活用等感染防止対策を講じてPTA活動を行う。	15,18	A	
	同窓会との連絡を密にし、同窓会活動に協力する。	同窓会役員と定期的に連絡を取り、情報交換に努める。	18	A	
		同窓会幹事会に学校の動向を伝える。	18	A	
1学年	基本的な生活習慣の確立	挨拶・身だしなみ・時間厳守・言葉使い・清掃を通し、基本的な生活習慣を確立する。	5,6	B	<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習等、家庭学習の習慣を確立し、学力の向上を目指した。しかし、学力が向上する生徒と伸び悩む生徒に分かれてしまった傾向にある。基礎学力を定着させるため、生徒たちに合った指導方法を教員同士で共有し、工夫して対応していきたい。 ・進路探究では、将来を見据えた自己分析を行った。将来の目標を定めて学習意欲が高まることを期待したが、まだ定まらない生徒も多く、継続した指導を行う必要がある。また、地域探究では、課題解決のための手法を学んだ。日程や内容を精査し、次年度に繋げていきたい。 ・通常の朝ドリル・課外授業の他に、成績が伸び悩んでいる生徒に対しても課外を実施した。指導の効果をさらに高めるために、各教科と協力していきたい。
		周囲に対する思いやりの気持ちを持たせ、集団生活に適應できる人材を育成する。	8,9	A	
	学習習慣の確立と基礎学力の定着	授業を第一に予習・復習を励行し、基礎・基本を身につけさせる。	2,3	C	
		ICTを活用したよりよい授業の在り方を研究する。	7	B	
		朝ドリル・課外授業に積極的・継続的に取り組ませる。	3,17	B	
	進路指導の充実	早期から進路意識を持たせ、進路研究を進めさせる。	6,21	B	
		個別面談・ホームルーム・集会・講演会等を活用し、自己の将来像を持たせる。	4,5,6	A	
	2学年	基本的な生活習慣の確立	端正な服装、容儀の保持や挨拶などの指導。時間厳守の行動の励行。	8,9	
心身ともに健康で情操豊かな生徒の育成		学校行事、部活、課外等に積極的に参加させ、強い体力、精神力を養うとともに自ら考え、責任ある行動がとれるようにする	13,14,15	A	
学習習慣の改善と進路探究活動の充実		授業を第一とし、予習・復習を含めた家庭学習とドリル、課外等に継続的に取り組ませる。	3	A	
		面談、HR、講演会、模試等を活用し、進路希望実現のための支援を多角的に行う	4,6	A	
3学年	基本的な生活習慣の確立	社会人として必要なTPOに応じた言動(挨拶・身だしなみ・時間管理・マナー・思いやり等)を励行し、継続的に実践できるようにする。	8,9	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立を目指し、特に時間管理面で提出期限厳守のため、粘り強い指導が必要である。 ・心身ともに健康で情操豊かな生徒の育成のために、さらに主体的に学校行事、部活動等に取り組む生徒を増やしていく。 ・進路希望実現への支援を継続的に実施し、その一環として朝ドリルの充実や手帳の有効活用を行っていく。 ・組織力の向上のために、学年行事の目的・実施方法やノウハウの共有化をさらに図る。
	心身ともに健康で情操豊かな生徒の育成	担任・副担任と生徒との信頼関係のもとに、生徒の良い面をさらに伸ばすよう適切にアドバイスする。	4	B	
		学校行事、部活、清掃、課外等に参加させ、心身を鍛え、自ら考え責任ある行動がとれるようにする。	13,14	B	
	進路希望実現への支援	授業を第一とし、予習・復習を含めた家庭学習とドリル、課外等に継続的に取り組ませる。	1,3,7	B	
		個人面談、HR、講演会、模試等を活用し進路希望実現のための支援を多角的に行う。	4,5,6	B	
	組織力の向上	いじめや事故の未然防止のため、学年会等を活用して教員間で生徒情報を共有する。	8	B	
		学年団で教務の分担やノウハウ・データの共有を積極的に行う。	17	C	

* 評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない